

コラムから

保障よりもチャンス

十年ぶりに、大学時代の友人を、都内の職場に訪ねた。身障者手帳三級をもつIさんは右足が不自由。卒業と同時に、身障者のグループ「日本アビリティーズ協会」を創立、ほぼ同時に会社を設立し、今年で二十五周年を迎えた▼事務所内の明るい雰囲気には驚いた。百三十人の社員のうち約四割が身障者だという「いらっしやいませ」——車椅子の女性からかけられる声が、実にすがすがしく思えた。印刷業から出発した会社

は、今リハビリ機器の販売など、多角経営に取り組む。株主には毎年、配当も続けてきた▼「私は平凡な人間でありたくない。非凡な人間としてできれば保障よりも（働く）チャンス」を選び、保障された生き方よりも、常に挑戦する人生を、冒険と建設の道、人間としての尊厳の道を歩むことを、アビリティーズの綱領は訴えている▼今でこそ、身体障害者雇用促進法の改正などにより、社会の理解が進んできたが、かつては「身体に障害をもつ人々は雇用しない」との考えが、そのまま通っている時代もあった。「私

自身、就職を希望して、断られた会社は五十以上へのぼりました」。このうした逆境の中「人の能力は目に見えないところにある」との信念で茨の道を進んできたという▼勇気のあるところが道が開け、ハンディがあるほどに挑戦への意欲が燃える。数多い学会員の体験にも通じている。片足でも運転できるように改造した車で、仕事に汗するIさんの姿に、こちらが学び励まされることも多かった▼友との出会いは、その分、また自分の人生も豊かにする（1991年）



（あれから十四年、同社は社員数五百人を超え、企業に発展、日本の身障者の精神面のリーダー的な存在になっていく。『伊東弘泰』さんも、現在、早稲田大学人間科学部客員教授ほか、多様な要職をかかえ、国内のみならず世界を駆け回っている）

アビリティーズの綱領

わたしは平凡な人間でありたくない。非凡な人間としてできれば保障よりもチャンス、そわたしの願いである。わたしは、国家に養われ卑屈で、怠惰な人生を送ることに満足できない。わたしは、夢をえがき、計算された冒険の道を求め、建設しつづける。

—— 例え、それが成功しようとも、失敗しようとも。わたしは、すばらしい人生の刺激を、いくばくかの施し物のために放棄することなどはしない。

わたしは保障された生き方よりも、つねに商戦

道を示すものである。

「志」が消えた社会

する人生を選ぶ。それは
ユートピアのような日々
ではなく、スリルに満ち
た世界である。わたしは、
決して、恩恵のために自
由を、慈善のために尊厳
を捨てることはしない。

いかなる権力者の前でも
畏怖しないし、また、
いかなる恐怖に対しても
恐れることはない。姿勢
を正し、誇らかに、なに
ごとも恐れず、自らの意
思で決断し、行動する。
自分で創造していくこと
を大切に考え、世間に向
かってこう宣言したい。
——これがわたしの成し
遂げたことだ——と。

われら数百万の障害者
のために、あなたとわた
しのために、この綱領は
名誉ある日本人としての



「瓜田(かでん)に履(くつ)を納(い)れず、李(り)下(り)か)に冠(かんむり)を正(ただ)さず」。

瓜(うり)畑(はたけ)で靴(くつ)を履(は)きなおしていれば、瓜(うり)盗(ぬす)人の疑(うたが)いを受ける。スモモの木(き)の下(した)で手(て)をあげ冠(かんむり)を正(ただ)すのも同じ。嫌疑(うたが)いを受けるような行為(ゐざ)は慎(おそ)むべき、との誠(まこと)めである▼大蔵(だいざう)官僚(くわうりょう)でこの故事(こと)を知らない人(ひと)はいないだろう。次々(つぎつぎ)と明る(あ)るみになる汚職(おごち)と腐敗(ふはい)の構造(こうざう)。モラル(もらる)の低下(たげ)。

“瓜田(かでん)に履(くつ)を履(は)すなか、箆(へら)を腰(こし)に瓜畑(かたけ)に忍(しの)び込み、またスモモの木(き)によじ登(のぼ)っているようなものだ▼「担(か)る

当(あた)る被告(たうぼう)の金(かね)で、裁判(さいばん)官(くわん)が飲(の)み食(た)いし、ゴルフをすいたとしたら、誰(たれ)がそんな裁判官(さいばんくわん)の判決(はんけつ)を信用(しんよう)するだろうか」と捜査(さうさ)を進(すす)める検察官(けんさつかん)の弁(べん)▼憲法(けんぽう)第(だい)55(ご)条(じょう)に「すべて公務員(こうむいん)は、全(ぜん)体(たい)の奉仕(ほうし)者(しや)であつて、一(いっ)部(ぶ)の奉仕(ほうし)者(しや)ではない」とある。誰も(たれ)もが、学校(がく)を出(で)たばかり(ばかり)のころは「国民(こくみん)のため、社会(しゃかい)のため」との気概(きがい)に燃(も)えていたにちがいない。その「志(し)」がいつ(いつ)か消(き)え去(さ)り、人(ひと)の道(みち)からさえも外(はず)れてしまった▼物欲(ぶつよく)に支配(しはい)されがちな人間(にんげん)の性(さが)と社会(しゃかい)の動向(どうきやう)。そこには精神(しんせい)の貧弱(ひんじやく)化(か)がのぞいてい(い)る。「国(くに)は土地(ち)でもな(な)ければ官職(くわんしやく)でもない。国民(こくみん)

の精神(しんせい)の失(う)せた時(とき)にその国(くに)は滅(め)びる」とは先哲(せんてつ)の警鐘(けいしゆ)。経済(けいぎ)に危機(き)感(かん)を持つ(も)つ人は多(おほ)くても、もつと大事(だいじ)な心(こゝろ)の問題(もんだい)について(について)の危機感(ききかん)を訴(こ)える人はまだ少(すく)ない▼精神(しんせい)土壌(どじやう)の変革(へんかく)こそ、現(いま)在(ざい)のわが国(くに)で求(もと)められ(ら)れている最(さい)重要(じゆうじやう)事(じ)である。「蔵(くら)の財(ざい)より身(み)の財(ざい)すぐれたり。身(み)の財(ざい)より心(こゝろ)の財(ざい)第一(だいいち)なり」。御金言(ごきんごん)が千鈞(せんきん)の重(おも)き(き)をもつて迫(せま)ってくる。(1998年)

